

平成29年度第1回千葉県県民活動推進懇談会における委員の主な意見

| | 主な意見 |
|--|---|
| 千葉県県民活動推進計画 平成28年度 実施事業の 実施結果 について | <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度実施事業一覧の達成度の表記について、「バー」の表記は「別掲」や「後掲」などがいいのでは。 |
| 次期千葉県 県民活動 推進計画の 策定について | <ul style="list-style-type: none"> ○ 富里市では、「ちい寄附」という地元の飲食店の客までもが、県民活動に参加できる仕組みがある。このような仕組みを県域で行えば、県民活動の醸成ができるのでは。敷居が低い参加の仕方を一斉に広げるのは良いと思う。 ○ 課題はこれからも次々に生じるが、実際の対応となることが多い。その点をわかりやすく発信することが重要。 ○ 危機感を持っている方も多く、多様な活動の場と機会を用意することが大事。 ○ 指標「市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合」について、26年度までは「知っている」で、27年度からは「関心がある」に軸足を移しリスタートし、43.6%が44.5%に若干増えているのはいい傾向。関心から参加定着を狙うため、まずは関心に軸足をおくということでもいいのではないかと。 ○ 指標「ボランティア活動に参加したことがある人の割合」について、37.2%が35.6%に少し減っている点を踏まえ、現状の数値をリスタートとし、どう増やしていくかということに軸足をおけば良い。 ○ 指標「ボランティア活動に参加したことがある人の割合」について、寄付も参加とした場合に、ちょっとした寄付もここに「○」がつくようにするための対応が必要。設問のところに補足を付けてあげると良い。 ○ 「地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進」の指標は、これから横ばいになるかもしれない。この水準をどう位置づけるか、県としての検証が必要。 ○ 指標「寄付を受けたことがあるNPO法人の割合」について、ずっと50%後半、若しくはそこらへんで横ばいになっているので、水準の検証が必要。 ○ 指標「地域の様々な主体と連携している市民活動団体の割合」について、高水準70%で件数も多い。水準の評価、検討が必要。 ○ 「グッド・プラクティス」の評価を並行して始めていったらどうかと思う。件数のみでなく、中身の方にも手を付けていくと良い。 |

主な意見

- 「地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進」の指標について、どうしても協働といったときに「プロセス評価」になるが、これからは課題解決・結果「アウトプット」までではなく、「アウトカム」成果として、その事業がどうだったかという水準を求められてきているように思っている。
- 「休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」の成立を受け、団体の基盤強化を今年度行う必要がある。
制度の活用に向けて、管理能力や課題解決力を付けていくという視点を、推進計画にも反映できればいいかなと思っている。
- 指標「市民活動団体の活動へ参加している人の割合」について、活動と寄付は異なる。寄付も活動であると定義を出すか、あるいは、活動と寄付を分けて分析してみるか。やはり活動と寄付は違うと思うので、その点をどうするかは、課題として残る。
- 指標「ボランティア活動に関心がある人の割合」のところで、オリンピック・パラリンピックの関係もあって、大学生のボランティアを推進していこうかという動きがあるが、ボランティアをする学生は、自身のキャリアプランに関心がある。対して、受け入れ側は労働力として受け入れている。
若者のボランティア活動の意図を指標として調査し分析できれば、現状が見えるのでは。
- 「裾野の拡大」が広がる中で、より人材が集まって定着していくというこの図式を、どうやって「人材づくり」を拡大して作るのか、その関係がわかりやすく説明できるような計画づくりとなれば良い。
- 別の部署とも連携して、コミュニティを支える人材の育成というような、分野横断的に人づくりをやってもらいたい。
支え合いがベースになると思うが、それ以外に例えば、交流から支え合いにもっていくためには、グローバルを含め、地域を活性化する人材育成という観点が必要となる。
- 高校生、小・中学生の育成を学校教育等と連携し、郷土愛など、「地元に戻って支え合おう」と考えるきっかけを学ぶ機会があると良い。
- 大学生をうまく役立たせ、地域に溶け込ませるという視点が重要。
社会人になったとき、千葉で様々な活動ができる組織や仕組みが残せたら良い。
- 小・中・高校生・大学生とつながっていく、一連の人材育成のつながりの仕組みづくりを是非やってもらいたい。
- 学習指導要領の改定時期であり、また、入試制度も変わる時期なので、小・中・高・大の連結のチャンスである。若い世代の裾野拡大と人材づくりは、大変面白い時期だと思っている。

| | 主な意見 |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ オリパラを契機とし、障がい者教育等を進めることが重要である。 ○ パラリンピックについて、大会後の「レガシー」を考え、残すことがとても重要である。そういうことを前文か何かで謳うことがとても大事だと思う。共生社会の実現へ向けたときに、2020年限りで終わらないためのマインドづくりが重要であり、人材育成だと思う。「共生社会」の実現がレガシーと考える。 ○ 寄附について、多様な方法があること、県内にはたくさん事例があることをもっと多く発信していただきたい。 ○ なかなかいろんな寄付があるが、割りと知られていない。コラムや資料などで事例等を記載し、参考書とできればよい。 ○ 「狙い」の部分を明確に打ち出しておく、何かリーフレットみたいなのがあれば良い。 ○ 「こういう部分の裾野の拡大のために、こういうことを我々はやっていて、あなたたちがそこに参加してくれた」ということを説明するためのリーフレットがあったらいいと思う。 ○ 若い世代に働きかけをするためには、「こういう方法でできる」だけではなく、ほかに「一つの事例」と選択をさせる案内の作り方の形が適正。その際、「裾野拡大」、「人材づくり」、「団体支援」、「つなげる」と体系化して、簡単に書いた方がわかりやすい。 ○ 人材づくりの指標づくりはかなり難しくなると思うが、取り組まなければいけない課題である。 ○ NPOの活動実態調査の質問項目については、内閣府や他県での調査と項目の比較が必要。 |